



## 人はなぜ勉強するのか

校長 筒井 啓介

私が担任をしていた頃、中学生から「先生、なぜ勉強するの?」「方程式を解くための解の公式なんて、入試に出ても普段の生活で必要あるの?」など、勉強に対する疑問の声をよく聞きました。その度に、「解の公式に限らず、普段の生活で使うことがない公式や知識もあるけれど、それらを知っていること（学んだこと）は決して無駄にはならない。無駄だと思ふものこそ、必ず役立つときがある」と話してきました。そして、自分自身も改めて人はなぜ学ぶのだろうと考え、いろいろな本を読んできました。そんな折に、太宰治の「正義と微笑」に出会いました。その一節を紹介します。

「勉強というものは、いいものだ。代数や幾何の勉強が学校を卒業してしまえば、もう何の役にも立たないものだと思う人もいるようだが、大間違いだ。植物でも、動物でも、物理でも、科学でも、時間のゆるす限り勉強しておかなければならん。日常の生活に直接役に立たない勉強こそ、将来、君たちの人格を完成させるのだ。何も自分の知識を誇る必要はない。勉強して、それから、けろりと忘れてもいいんだ。覚えるということが大事なのではなくて、大事なのは、カルチベート★<sup>1</sup>されるということなんだ。カルチュア★<sup>2</sup>というのは、公式や単語をたくさん暗記している事でなくて、心を広く持つという事なんだ。つまり、愛するという事を知ることだ。学生時代に不勉強だった人は、社会に出てからも、かならずむごいエゴイストだ。学問なんて、覚えると同時に忘れてしまってもいいものなんだ。けれども、全部忘れてしまっても、その勉強の訓練の底に一つかみの砂金が残っているものだ。これだ。これが貴いのだ。勉強しなければいかん。そうして、その学問を、生活に無理に直接役立てようとあせってはいかん。ゆったりと、真にカルチベートされた人間になれ!」

太宰治「正義と微笑」より

★1 Cultivate: (才能など) をみがく、高める。

★2 Culture: 教養

下記に、人はなぜ学ぶのかについて書かれた書籍を紹介します。山手台中の皆さんにも読んでもらいたいと思います。(声を掛けてくれれば貸しますので読んでみませんか。)

- ①「なんのために学ぶのか」池上彰
- ②「なぜ読解力が必要なのか」池上彰
- ③「AI VS. 教科書が読めない子どもたち」新井紀子
- ④「君たちはどう生きるか」吉野源三郎
- ⑤「冒険の書 AI時代のアンラーニング」孫泰蔵
- ⑥「ケーキの切れない 非行少年たち」宮口幸治
- ⑦「正義と微笑」太宰治

## ■「地産地消」を通した学びに向けて



苗を植え付けた畑 (6 月 26 日)



苗を植え付けた畑 (8 月 2 日)



苗を植え付けた畑 (8 月 6 日)



今中さん(右)より栽培状況の説明

家庭科担当の布谷先生から「家庭科の調理実習でさつま芋を使った調理をしたいと考えています。できれば、食材を通して地産地消の意義や SDGs についても学ぶ機会にしたいのですが…」と相談を受けました。そこで、宝塚北開発グループの今中光雄さんに相談したところ、快く栽培を引き受けてくださることになりました。

栽培していただく畑は宝塚市の西谷地区(波豆)にあり、約 250m<sup>2</sup>の畑です。さつま芋を植えるために施肥【堆肥(土の通気性を向上)・過リン酸石灰(根の成長と実の付きが向上)・米糠(土中の微生物を増やして土をふかふかにする)】を行い、300本の苗を6月9日に植え付けていただきました。植え付け後も、水やりや追肥を丁寧にしていただき、苗は順調に成長しています。

植え付けたさつま芋は「鳴門金時」という品種で、栗のようにホクホクとした食感と、糖度が高めなのが特徴で、お菓子の材料などでも重宝されているそうです。収穫は10月下旬の予定で、収穫した「鳴門金時」を使って調理実習をしますので、皆さん楽しみにしてください。

今中さんに栽培していただいている「鳴門金時」を通して、農業の大切さや SDGs について学ぶとともに「ふるさと宝塚」を知り、「ふるさと宝塚」に誇りを持つ機会になれば幸いです。